

事例番号:300227

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第二部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 24 週 3 日 - 切迫早産の診断で管理入院、妊娠 32 週 0 日まで胎児心拍数陣痛図で異常を認めない

#### 3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

#### 4) 分娩経過

妊娠 32 週 1 日

10:00 胎児心拍数陣痛図で一過性頻脈消失、基線細変動のやや減少を認める

14:15 血液検査で白血球  $9000/\mu\text{L}$ 、CRP  $0.51\text{mg/dL}$

17:00 陣痛発来

18:20 頃 - 胎児心拍数陣痛図で変動一過性徐脈を認める

19:00 体温  $37.8^{\circ}\text{C}$

19:05 経膣分娩

胎児付属物所見 胎盤病理組織学検査で臍帯炎ステージ 3、絨毛膜羊膜炎ステージ 3

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:32 週 1 日

(2) 出生時体重:2028g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH  $7.335$ 、 $\text{PCO}_2$   $38.9\text{mmHg}$ 、 $\text{PO}_2$   $19.2\text{mmHg}$ 、

$\text{HCO}_3^-$   $20.2\text{mmol/L}$ 、BE  $-4.8\text{mmol/L}$

(4) Apgarスコア:生後1分6点、生後5分7点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

出生当日 低出生体重児、早産児、新生児特発性呼吸窮迫症候群、胎児全身性炎症反応症候群

(7) 頭部画像所見:

1歳3ヶ月 頭部MRIで脳室周囲白質軟化症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医2名、小児科医1名

看護スタッフ:助産師3名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、胎児の脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことであると考えられる。

(2) 胎児の脳の虚血(血流量の減少)の原因を解明することは難しいが、臍帯圧迫による臍帯血流障害の可能性はある。

(3) 胎児の脳の虚血が発症した時期を特定することは困難であるが、妊娠32週0日以降から分娩までの間のどこかの可能性はある。

(4) 子宮内感染がPVLの増悪因子となった可能性はある。

(5) 児の未熟性がPVLの発症の背景因子であると考えられる。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

(1) 入院後の管理(子宮収縮抑制薬投与、抗菌薬投与、血液検査、超音波断層法実施、ノンストレス等)は一般的である。

(2) 妊娠24週3日、24週4日にベクタグリリン酸エステルトリウム注射液を投与したことは医学的妥当性がある。

## 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 32 週 1 日に胎児心拍数陣痛図で一過性頻脈が乏しいと判読し、胎動自覚も乏しいため体位変換を実施し、分娩監視装置の装着を延長したことは一般的である。
- (2) 13 時 45 分に羊水混濁を認めた後の対応(超音波断層法、膣分泌物培養検査、分娩監視装置装着、血液検査の実施)は一般的である。
- (3) 発熱とともに血液検査で白血球の上昇、および子宮熱感を認め、子宮内感染を疑い、感染があまり重症化しない間での分娩が望ましいと判断し、子宮収縮抑制薬の投与を中止し、分娩進行を見守る方針としたことは一般的である。
- (4) 18 時 20 分以降の胎児心拍数陣痛図の判読(軽度・高度変動一過性徐脈の連発)とその後の対応(内診、酸素投与、分娩室入室、経膣分娩)は一般的である。
- (5) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (6) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

出生後の対応は一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】児が新生児仮死で出生した場合や児に感染が認められた場合、また重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

- ア. 早産児の PVL 発症の病態生理、予防に関して、更なる研究の推進が望まれる。
- イ. 絨毛膜羊膜炎および胎児の感染症や高サイトカイン血症は脳性麻痺発症に関

係すると考えられているが、そのメカニズムは実証されておらず、絨毛膜羊膜炎の診断法、治療法はいまだ確立されていない。これらに関する研究を推進する事が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して  
なし。